

質 問 事 項

1 道路交通局における環境政策について

環境面から、健康面から自転車が見直され、自動車から自転車に乗り換える人も増えている。市の政策としても自転車で移動しやすいまちづくり整備が求められる。

(1) 道路整備について

ア 歩車分離による自転車道確保の計画どうなっているのか。

回 答

◎ 自転車走行環境の整備手法については、歩道上での自転車・歩行者の通行帯の視覚的分離と車道への自転車通行帯の設置の2つに大別できます。

◎ このうち、歩道上での視覚的分離については、比較的自転車の交通量の多いデルタ市街地において、平成16年度（2004年度）に総延長25.1kmの整備計画を策定しており、平成20年度（2008年度）末には、整備延長が5.4kmになります。

◎ 一方、車道への自転車通行帯の設置については、来年度、デルタ市街地の道路を対象に社会実験を行い、自転車の安全性や走行性などを検証したうえで、車道への自転車通行帯の設置も含めた整備計画を策定したいと考えています。

質 問 事 項

1 道路交通局における環境政策について

(1) 道路整備について

イ 歩道のない車道、或いは歩道幅が狭いところは必然的に車道を通行せざるを得ない。こういった箇所の路肩の改良が急がれると思うが、整備計画はどのようなのか。

回 答

- ◎ 路肩部分を改良する整備計画というのは特にありませんが、自転車の通行に限らず道路利用者の通行に支障が生じないようにパトロールや点検などにより、必要に応じて補修や改修を行っております。
- ◎ 舗装が傷んだ場合の一般的な補修は、既設の舗装のうえに舗装を重ねるオーバーレイという方法により行っており、道路端部の傾斜が幾分か急になっているところもあります。
- ◎ このため、オーバーレイを重ね、道路端部の傾斜が急になる場合には、既設の舗装面を切削したうえで舗装するなど、道路端部の傾斜を緩やかにし、道路利用者の通行の安全性確保に努めてまいります。

質 問 事 項
<p>1 道路交通局における環境政策について (2) 駐輪場の整備計画はどうなっているか。 全体計画と来年度の整備計画</p>
回 答
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 駐輪場の整備については、放置自転車等の状況や駐輪場の利用状況等を把握しながら、良好な生活環境の確保と都市機能の保持の観点から、優先順位をつけて計画的に行なっています。 ◎ 現在は、特に放置が著しい、平和大通り南側地区に重点を置いて、駐輪場の整備を推進しています。 ◎ この地区においては、平成 20 年（2008 年）4 月に、小町自転車等駐車場及び富士見町第二自転車等駐車場を供用開始するとともに、平成 21 年（2009 年）4 月には大手町三丁目自転車等駐車場を供用開始する予定です。 ◎ 平成 21 年度（2009 年度）は、引き続き、平和大通り南側地区において、小町第一自転車等駐車場を整備するとともに、登録利用のキャンセル待ちが最も多い横川駅北口自転車等駐車場について、約 150 台の増設を行なうこととしています。 ◎ 今後も、引き続き、放置自転車等の状況を把握しながら、計画的に駐輪場の整備を進めていきます。

質 問 事 項

1 道路交通局における環境政策について

(3) これからは「電動アシスト自転車」の利用が増えてくると考えるわけだが、市営駐輪場の屋根に太陽光発電を設置し、利用者が気軽に充電できるシステムをつくったらどうかと考える。

まずは市役所駐輪場から「ソーラー駐輪場」を試みてはどうか。「カーボンマイナス70」を打ち出しているわけで、道路交通局が率先して検討していただきたい。

回 答

- ◎ 電動アシスト自転車は、近年の価格の低下やガソリン価格の高騰などにより、年々、販売台数が増えています。
- ◎ 駐輪場への太陽光発電システムについては、本年3月に徳島県庁で導入されると聞いていますが、メーカーに問い合わせたところ、実用化に向けて、天候に関わらず安定した電力を供給するための蓄電池の能力、対応可能な自転車数などの点について、実証実験を行っているものであり、設置経費についても、明らかにできないとのことでした。
- ◎ メーカーによれば、全ての電動アシスト自転車に対応可能な充電設備は現在のところないとのことであり、規格が統一されていない充電機を複数用意することはできませんが、充電するためのコンセントについては設置に向けて検討したいと考えています。
- ◎ また、太陽光発電による充電システムを導入するためには、今後、徳島県庁の実証実験の状況などについて情報収集を行なうなど、研究を進めていきたいと考えています。